

吹田市の新指定文化財！



NO.12 ペーパークラフト

山田伊射奈岐神社社号標石（左）、佐井寺伊射奈岐神社社号標石（右）

（今回新指定の有形文化財 山田伊射奈岐神社社号標石と佐井寺伊射奈岐神社社号標石をモデルに作成したものです。）

博物館だよりNO.37の速報でお伝えしましたが、本年2月23日、新規に市指定有形文化財^{ゆうけい}4件が指定され、地域無形民俗文化財^{むけい}1件、地域有形民俗文化財1件が登録されました。また、12月8日付けで、内本町2丁目に所在する旧西尾家住宅^{きゅうにしおけじゅうたく}が国の重要文化財に指定されました。

そこで今号では、新指定等の文化財の紹介を中心に特集を組みます。

新市指定及び登録の文化財

- 1 市指定有形文化財 垂水南遺跡出土墨書土器 27点
- 2 市指定有形文化財 玉林寺文書 6通 附 包紙2点、覚書1点
- 3 市指定有形文化財 山田伊射奈岐神社社号標石 1基
- 4 市指定有形文化財 佐井寺伊射奈岐神社社号標石 1基
- 5 市地域有形民俗文化財 江坂素盞鳴尊神社太鼓御輿 1台
- 6 市地域無形民俗文化財 江坂素盞鳴尊神社太鼓御輿神事

平成21（2009）年2月23日指定・登録

垂水南遺跡出土墨書土器

市指定有形文化財

垂水南遺跡は吹田市垂水町3丁目から江坂町1丁目にかけて展開する、古墳時代及び平安時代を中心とする遺跡です。墨書土器は昭和53（1978）年に垂水町3丁目25において実施された第5次調査で、平安時代初めの河跡から出土したものです。

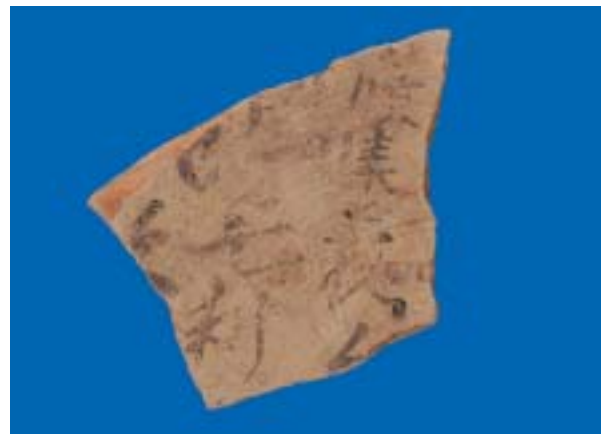
墨書土器（線刻含む）は、明確なもの27点の内、文字等が記された土師器15点、須恵器1点、記号が記された土師器8点（墨書5点、線刻3点）、須恵器3点で平安時代初めを主

とする資料です。内容は、^{しょうえんめい}莊園名「垂庄」を記したもの、『古今和歌集』の^{なになづ}難波津の歌の記されたもの等があります。「垂庄」は^{こうにん}弘仁3（812）年に成立した^{とうじりょうたるみしょう}東寺領垂水荘を示すものと考えられ、難波津の歌の記された墨書土器は役所的性格の遺跡からの出土の多いのが特徴です。墨書土器は東寺領垂水荘が成立した時の様相を示す資料であるとともに平安時代の本遺跡の性格を考える上で重要な資料です。（増田真木）



墨書土器「垂庄」（上）、「中庄」（下）

「中庄」は垂水荘の一部を表現する可能性も考えられます。他には「田中」、「長」、「中」、「七」等があり、記号では「一」、「十」、「*」等があります。



難波津の歌の書かれた墨書土器

（^{しる}東）^{なになづ}波津^{しる}佐久
已毛利
佐久
『古今和歌集』
な（に）わづにさ（く）やこのはな
ふゆごもりいまははるべと
さくやこのはな

玉林寺は、吹田市出口町に所在する曹洞宗の寺院で、元禄5（1692）年の『石川主殿頭知行所寺社吟味帳写』によると、文安2（1445）年、惟忠守勤（？－1447年）開基とされています。中世には玉林院といい、細川持春（？－1458年）の院号玉林院（入道号常忻）に因むものといわれ、細川家一門ゆかりの寺院として手厚い保護を受けてきました。玉林寺には、16世紀前半の文書6通が残されています。

玉林寺文書は、吹田市内に残る数少ない中世文書であり、玉林寺の初期の寺領である丹波国本免庄内石蔵分に関するもの、戦乱の渦中で課役の免除を約束したもの、種々の保護を与えた禁制など、中世動乱期の玉林寺の歴史を知る貴重な文書であり、また、管領家の家督相続をめぐる対立・抗争した細川高国と細川晴元の文書は摂津国を巻き込んだ争乱の経緯を知ることができる貴重な史料です。
(西本安秀)



1『貫田秀家本免庄石蔵分代官職請文』
文亀2（1502）年



2『細川政春寺領安堵状』
永正13（1516）年



3『細川高国奉行人飯尾元兼奉書』
永正13（1516）年

玉林寺の初期の寺領である丹波国本免庄内石蔵分（現在の所在地は不明）に関するものです。

細川家の家督争いから始まった畿内周辺の戦乱が小康状態の時に管領細川高国により出されたものです。



4『細川高国禁制』
享禄4（1531）年

細川高国が京都の奪回をはかっていた頃に出されたものです。高国は享禄4（1531）年6月に摂津天王寺で細川晴元方と戦って敗れ、尼崎で自害しました。



6『細川晴元寺領安堵状』
天文4（1535）年

5『浦上村宗禁制』
享禄4（1531）年

浦上村宗は、備前守護代で、播磨国南部から備前東半にかけて勢力を持ちましたが、享禄4（1531）年6月に摂津天王寺で晴元方と戦い敗死しました。



高国を滅ぼした晴元は管領として実権を握り、細川家の内紛は終結しましたが、戦乱はなおも続き、そのような中で出されたものです。

やま だ い ざ な ぎ じん じゃ しゃ ごう ひょう せき
山田伊射奈岐神社社号標石
 さ い であ
佐井寺伊射奈岐神社社号標石

市指定有形文化財



山田伊射奈岐神社社号標石



佐井寺伊射奈岐神社社号標石

山田伊射奈岐神社と佐井寺伊射奈岐神社の社号標石はほぼ同質の花崗岩製の石材から成ります。正面に「伊射奈岐社一座」、向かって右側面に山田では「山田庄小川村」、佐井寺では「佐井寺村」、上段台石に「菅廣房建」と刻まれています。これらに類似するものは、吹田市のものを含めて旧摂津国に合計20基認められます。

これらの標石は、幕府の支援を受けた儒学者の並河誠所により、式内社の顕彰を目的に摂津国の式内社20社に建てられたものです。

残された史料によりますと、元文元（1736）年9月、摂津国内の20ヶ村の各代表が大坂町奉行所に呼び出され、寺社奉行の大岡越前守（忠相）よりのお達しで、村の氏神に標石を建てることや大坂の石屋で用意した石を取り寄せること等の指示がなされ、標石は元文元年から翌年にかけて建立されました。

このように残された史料で建立の目的やいきさつ、時期等がわかり、また当時建立されたと思われる20基全てが遺存するということからも貴重な資料といえます。（西本安秀）



台石（佐井寺）の部分拡大
 （「菅廣房建」と彫られています。）

台石に刻まれた「菅廣房」は建碑のため資金20両を提供した山口屋伊兵衛（大坂の人という以外詳細不明）のこととされています。菅廣房は元文元年に佐井寺村の庄屋宅で亡くなったといわれ、その墓と伝えられる「菅氏墓」と刻まれた墓石が佐井寺の墓地に残されています。

江坂素盞鳴尊神社太鼓御輿 江坂素盞鳴尊神社太鼓御輿神事

市地域有形民俗文化財

市地域無形民俗文化財

江坂素盞鳴尊神社太鼓御輿は江坂素盞鳴尊神社の神幸式において担がれるもので、一辺109cm四方を測り、腰貫・飛貫間には四方ともに牡丹・唐獅子、欄干には二十四孝を題材とする彫り物を入れ、全体に極めて装飾性に富んでいます。「嘉永六丑九月」と記す墨書から嘉永6（1853）年の建造とわかり、欄干に刻まれる「彫工 小松」の銘から大坂の彫物師小松一門の関わりがわかります。

本太鼓御輿は、江坂素盞鳴尊神社の神幸式に今も使用される祭具であり、太鼓台としては建造の年代や工匠がわかる本市唯一のもので、彫刻による装飾や梵天の柱が建つ形式などが神社祭具の発展などを考えるうえで貴重な資料です。

江坂素盞鳴尊神社太鼓御輿神事は、毎年10月15日、旧榎坂村地域の江坂町1・2・3丁目に住む同社の氏子によって行われる神幸祭です。太鼓御輿は太鼓台の四隅に梵天を取り付け、幕を吊って結界とし、中で乗り子が太鼓を打ち鳴らすもので、これを15日に朝から旧榎坂村内を巡行させ、夕方に当神社境内へと宮入させるものです。神事の起源については不明ですが、少なくとも幕末から明治頃には太鼓御輿が使われていたとみられます。現在15日の一日で全ての儀礼を行っていますが、もとは14日の宵宮の儀礼として夕方から宮入し、神木を巡ることが行われ、渡御は15日の本宮で行われていました。本神事には、かつて行われていた古い神幸式の要素や

形態が部分的に残っていると考えられ、神幸祭の様子を復原することができる貴重なものです。

（桑田佳純）



江坂素盞鳴尊神社
太鼓御輿



差し上げ
（郷土芸能大会 吹田市立博物館にて）



神木を回る

今年度の市内の発掘調査の成果

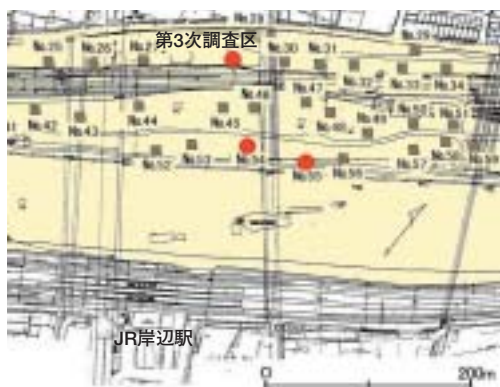
吹田操車場遺跡の発掘調査

吹田操車場遺跡は、JR東海道線吹田駅の東方から岸辺駅付近にかけて広がる、旧石器時代から中世の遺跡です。吹田市教育委員会では、これまでに4次にわたる発掘調査を実施しており、第1次調査（平成13年度）では、谷状地形の中で弥生時代や中世の遺物が検出されました。第2次調査（平成19・20年度）では、大型土坑や溝などの遺構とともに須恵器や土師器などの遺物が多く検出されました。この調査では、吹田市では出土例の少な

い飛鳥時代の資料が比較的まとまって確認され、特に陶硯（須恵器の硯）片が注目されます。この陶硯片は約50m離れた2箇所の調査区から同一個体とみられるものが2点出土し、さらに、今回、第3次調査区（平成21年度）からも同一個体が出土しました。陶硯は当時の主要な文房具の1つです。

なお、今年度は他に高城遺跡など13件の調査を行いました（12月末現在）。

（賀納章雄）



陶硯出土地点（●印）



陶硯が出土した大型土坑（NO.55調査区）
（飛鳥時代の井戸と考えられます。）



須恵器陶硯

円形の陶硯の破片3点（同一個体）が確認されました。復元径約23cmを測りますが、本来この下に付く脚は遺存していません。上面の平坦な所で墨を摺り、文字を書く際に使用されたと考えられます。

ようこそ「むかしのくらしと学校」展へ

今年も特別企画「むかしのくらしと学校」展が12月8日より始まりました。平成11（1999）年度から小学校3年生の社会科学習の一環としてスタートしたこの展示は、ちょうど10年を迎えました。12月5・6日の二日間、ボランティアのかたがたとともに昨年度の配置図を確認しながら^{ちんれつ}陳列作業を行いました。^{てな}手馴れたボランティアの方々の動きの中で、またたく間に展示が完成し、昔のなつかしいくらしの風景が再現されました。



ボランティアによる展示準備

今年は、常設展を子供たちができるだけ体験できるように、「弥生のくらし」と「むかしの米づくり」の二つのコーナーを新たに設けました。5月よりボランティア会議で論議を重ね、グループに分かれて企画・作業を進めてきました。大昔のくらし（衣食住）が大変なものであったことに少しでもふれられたらと、「弥生のくらし」コーナーでは、そのころ着ていた^{かんとうい}貫頭衣や食事を再現しています。

また、「むかしの米づくり」コーナーでは、昨年まで行っていたせんばこき体験に加え

て、もみすり^{せいまい}、精米の体験を準備しています。もみ米からもみがらをとって^{げんまい}玄米にする工程では、「土うす」という道具を使いますが、土で作っているために現存しているものがなく、今回ボランティアの方が「土うす」を手作りしました。今の親の世代も知らないような米づくり体験を通じて、毎日何げなしに食べている「米」は、実は多くの苦労や工夫の中から生まれてきていることに気づいてくれたらと願っています。

オープニング翌日の12月9日には、当館で、市内小学校の3年生担任の先生方を招いて、教育委員会指導課と教職員の研究組織「学研」社会部が、恒例の「学校団体下見説明会・抽選会」を実施しました。若い先生が増えてきた中で、「むかしのくらし」を指導していくことは大変かもしれませんが、この展示をうまく活用し、より充実した社会科学習にしていただけたらと思います。

（中村博幸）

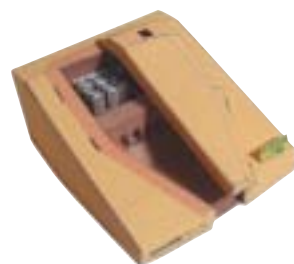


米づくりコーナーの説明風景

ペーパークラフトで歴史を学ぼう 4

ペーパークラフトの新作ができましたのでご紹介します。
「NO.11 吉志部瓦窯跡^{きしべがようせき}」は当博物館内に実物大で復元された吉志部瓦窯跡H1号窯跡の模型をモデルにしたものです。「NO.13 ポップアップペーパークラフト 竪穴式住居」は開けると竪穴式住居が出てくるといふ、いわゆるポップアップタイプのもので、今回新たに取り組んだものです。

(西本安秀)



NO.11 吉志部瓦窯跡



(箱に収納した状態)



(閉じた状態)



(開いた状態)

NO.13 ポップアップペーパークラフト 竪穴式住居

特別企画「むかしのくらしと学校」展関連等イベント

親子体験講座

「森の屋台で遊ぶ+森の素材で作る」

日時 平成22(2010)年1月30日(土)
午前の部 10時30分～12時 午後の部 1時～3時30分

講師 森の屋台のみなさん

内容 ①独楽まわし 10時30分～11時
②屋台と映像で森の学習 11時～12時
③枝や木材など自然の材料で独楽やキーホルダーなどの小物作り 午後1時～3時30分(定員30名)

申込 午前の部①・②は当日直接会場へ。
午後の部③は、1月20日(水)必着。

「やさしいおもちゃ作り」

日時 平成22(2010)年2月21日(日)

午前の部 10時～12時

午後の部 1時30分～3時30分

講師 シルバーアドバイザーのみなさん、
横山博明さん

内容 竹を素材とした昔ながらの遊び道具や牛乳パックなど身近な材料を使ったおもちゃ作りをします。

定員 午前、午後の部とも各20組

申込 2月12日(金)必着。

「縄文の服づくり」

日時 平成22(2010)年3月13日(土)

午前の部 10時～12時

午後の部 1時30分～3時30分

講師 博物館ボランティアのみなさん

内容 縄文時代の服作りに挑戦します。

定員 午前、午後の部とも各10組

申込 2月24日(水)必着。

「昔のあかりと火おこし体験」

日時 平成22(2010)年3月21日(日)

午前の部 10時～12時 午後の部 2時～4時

講師 当館職員

内容 ろうそく、行灯、石油ランプなど、昔のあかりを学習し、火打ち石やマイギリなどの火おこしを体験します。

定員 午前、午後の部とも各20組

申込 3月10日(水)必着。

■会場 いずれも博物館2階講座室

■申込 親子体験講座は、はがき、またはFAXで、希望の時間帯、住所、参加者全員の氏名、学年、電話番号を書いて博物館まで。

博物館トーク

1月24日(日) 「一向一揆と佐井寺月輪板」 池田直子(当館学芸員)

2月14日(日) 「古代摂津国を考える」 高橋真希(当館学芸員)

3月27日(土) 「山田村と吹田市との合併秘話」

内山実嗣さん(吹田郷土史研究会副会長)

*いずれも午後2時～3時、博物館2階講座室 先着120名 聴講無料

●開館時間

午前9時30分～午後5時15分

●休館日

月曜日、祝日の翌日

12月29日～1月3日

<http://www.suita.ed.jp/hak/>

吹田市立博物館だより 第40号

平成21年(2009年)12月28日発行

吹田市立博物館

〒564-0001

吹田市岸部北4丁目10番1号

TEL.06(6338)5500

FAX.06(6338)9886